

最後の代官

⑫

忠左衛門日記

江戸時代最後の代官と
左衛門の人物像は想像す
して明治維新前後の激動
るしかない。忠左衛門日

忠左衛門は家督を忠焉
の未来をすでに予測して
に譲ったあとも日記を残
いたのかもしれない。
しているが、その内容は
その後、忠左衛門は安
現役時代とは激変し、息
政4年(1857)に代
子の活躍ぶりを喜ぶ内容
官となるが、借金だらけ
が多いため、ごく普通の
の厳しい財政状況でのス
人だったように見える
ターゲット。殿様と地元の領
が、実はそうではない。民との間に入り、まとめ
役としての力
も発揮した。

忠左衛門の人となりを考察すると：

そして迎え
た明治維新で
は、常に緊張

左衛門はいっ
たい、どのよ
うな人物だっ
たのだろうか。

危機管理能力に優れ、まとめ役

そして迎え
た明治維新で
は、常に緊張

記から読み取れる彼の人
物像を探った。

兄2人を早くに亡く
を強いられるような状況
下で冷静に事態を捉え、

まず、忠左衛門はどん
な顔だったのか。忠焉ら

し、十倉谷領代官の後継
作助に公家方の情報を探

な顔だったのか。忠焉ら

らせるなど裏の一面も見

子弟の顔写真から想像す

せながら、的確な判断で

と、忠左衛門は面長で

身に付けた。20代の江戸
危機を乗り越える危機管

と、忠左衛門は面長で

理能力にも優れていたよ

と、忠左衛門は面長で

うだ。

と、忠左衛門は面長で

うだ。



忠左衛門や息子の忠焉らが暮らした十倉中町の旧宅。
現存していない(福井尚志さん提供のアルバムから)

このように、幕末から
の人格を形成し、十倉
明治初期にかけての大き
谷領を救ったのだら
う。(岡田圭司記者)